

「放送システムに関する技術的条件」のうち
「FM 同期放送の技術的条件」の検討開始について

1. 検討の背景

災害時におけるラジオの重要性が増す一方で、コミュニティ放送局の急増や平成 26 年 4 月に制度化された FM 補完中継局の全国的な置局等により、FM 放送用周波数のひっ迫は深刻化しており、FM 放送局への新たな周波数割当ては困難な状況になりつつある。こうした FM 放送用周波数のひっ迫解消のため、放送波を精密に管理することで同一周波数の利用を可能とする同期放送技術の普及が期待されている。

FM 放送の同期放送についてはこれまでも検討がなされてきたが、数 W 程度の小規模送信所での同一周波数利用を想定したものであり、また、送信所局間の同期手法が繊細かつ高度であることから、同期放送による等電界地域での音質劣化の低減などが課題とされてきた。

しかし、近年のデジタル技術の進展により、変調器のデジタル化や GPS などを用いた高精度な同期手法が比較的容易に実現できる環境となったことで、こうした技術を活用した品質の高い同期放送システムと干渉要因となる等電界地域における測定手法や調整手法について技術基準を検討することが求められており、平成 29 年度から平成 30 年度にかけて「FM 同期放送の導入に関する技術的条件の調査検討」を実施した。

このような背景を踏まえ、kW 級の大規模送信所にも導入することができ、高効率な周波数利用と聴取者に対するシームレスな受信環境の提供が可能な FM 同期放送の導入を図るため、必要な技術的条件の検討を行うものである。

2. 検討内容

平成 18 年 9 月 28 日付け諮問第 2023 号「放送システムに関する技術的条件」のうち「FM 同期放送の技術的条件」

3. 検討体制

放送システム委員会（主査：伊丹 誠 東京理科大学基礎工学部教授）において検討を行う。また、委員会が必要とする情報を収集し、委員会の検討を促進させるため、「FM 同期放送作業班」を設置することとする。

4. 一部答申を予定する時期

令和 2 年 2 月頃。

- コミュニティ放送局の急増やFM補完中継局制度の導入等により、FM放送用周波数はひっ迫しており、FM放送局への新たな周波数割当ては困難な状況になりつつある。
- こうした状況を踏まえ、コミュニティ放送や県域FM放送、FM補完中継放送等のFM放送について、デジタル変調技術を活用し、同一周波数によるシームレスな受信環境及び高効率な周波数利用を実現可能とするFM同期放送の技術的条件について検討を行う。
- なお、本件は、平成29年度及び平成30年度に実施した電波利用料技術試験事務「FM同期放送の導入に係る技術的条件の検討」の結果を踏まえたもの。

FM同期放送システムのイメージ

主な検討項目

- ①同期のタイミング(周波数差等)
- ②干渉調整のための混信保護比 等

